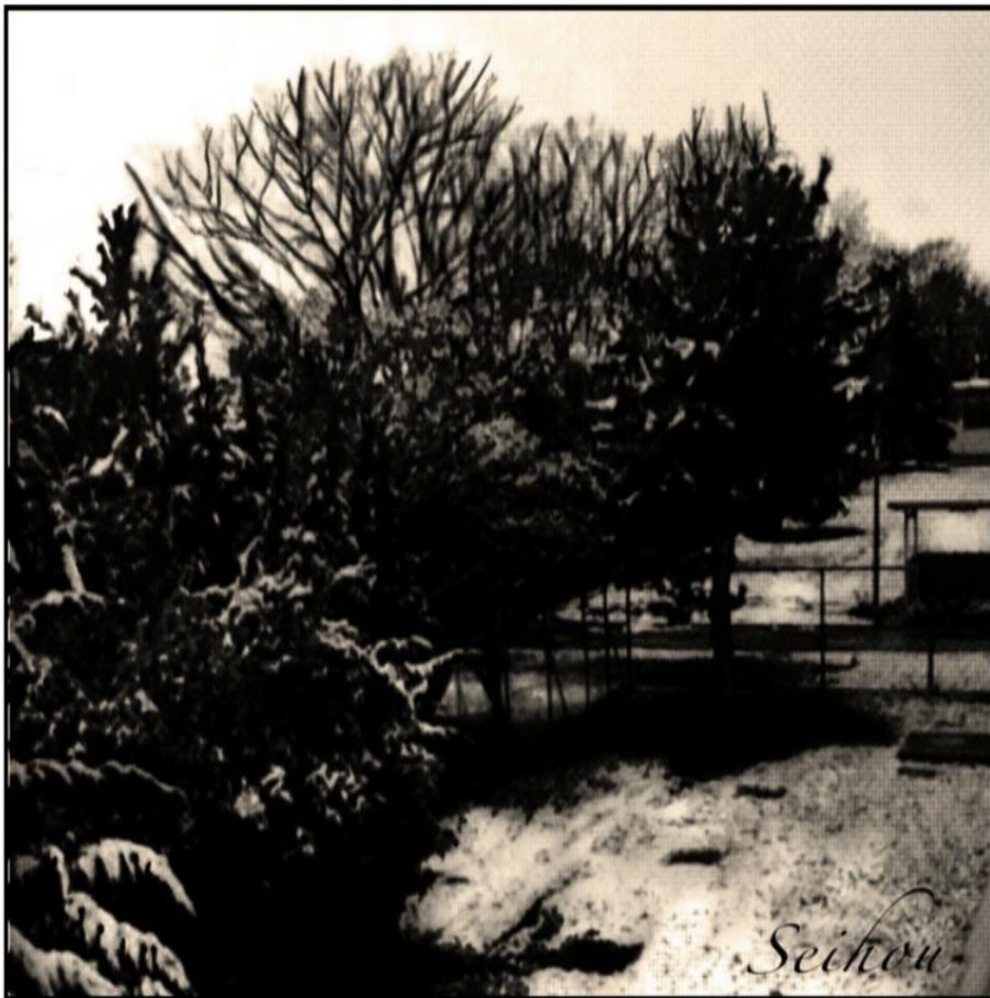


令和4年度 鈴鹿高専

青峰寮 広報誌 『青峰』



表紙デザイン 寮生 丸田佳奈

校長 挨拶



「高専人会」

校長 竹茂 求

皆さんは「一般財団法人高専人会（こうせんじんかい）」をご存じでしょうか。高専人会は令和4年の5月に、すべての高専人の互助ネットワークを有形化して、継続性のある互助活動を行うことを目的に創設されました。これから高専人会の色々な事業やイベントが企画されると思います。

「高専生は高専生」と言われるように、自分と違う高専であっても高専生、高専卒と聞けば親近感が沸くはずです。同じ高専だったらなおさら、5年間一緒に過ごしたクラスメート、ましてや寮で共に過ごした友人は一生忘れることができない存在でしょう。それにまつわる、ある高専の卒業生S君の話を紹介したいと思います。

S君は中学時代からコンピュータに関心があって高専に入学しましたが、プログラミングだけでなく、尖った才能をもつ個性豊かな友人達に圧倒されたそうです。皆さんも似たような経験があるかも知れません。しかしS君が偉かったのは、自信をなくすどころか刺激を受けて発奮し、彼らと競争して英語や専門などを本気で勉強する意義を見出したことです。一方で、そういう友人達に囲まれて生活した結果、自分自身を客観的に考えるようになりました。例えば、プログラミングはやはり彼の方が凄い、自分はどちらかといえば周りを纏めることが向いているのではないか、などです。自分の進路や仕事を決めるとき、自分の適性

を知ることと、本当にやりたい夢を持つことが極めて重要です。就職活動のキーワードに「自己分析」があるのはそのためです。そんな時S君は書籍を読みあさって一冊の本に出会い、自分の進む道を決めました。さて、ここからが特に青峰寮の皆さんにお話したいことです。S君は寮生でした。寮での生活や友人関係がS君の人生に大きく影響を与えたそうです。S君の思い出話に印象的なエピソードがあります。深夜、寮の前の道で友人達と車座に座り、それぞれが自分の将来の夢を皆の前で語りました。S君は一冊の本から芽生えた夢が膨らんでおり、自分は会社を作ると宣言しました。そして皆の何人かと一緒にできれば最高だと言いました。

皆さんも夜を徹して友人と語り合ったことがあるでしょう。私もあります。将来の夢や恋愛などを友人と話したことは、今でも忘れられない思い出です。

さてS君というのはフラー（株）の代表取締役会長の渋谷修太さんで、高専人会の初代会長です。鈴鹿高専は先日、渋谷さんに専攻科で講義をして頂きました。上記の話はその講義の話からの抜粋です。他に、高専時代の思い出、友人達と実際に会社を作った経緯、イギリスに飛んで投資家から資金を獲得したことなど、興味深い話が沢山ありました。関心ある人は、渋谷さんの著書「友達経営 大好きな仲間と会社を創った（徳間書店）」を読むとよいでしょう。本校の図書館にもあります。



寮務主事補 広報担当 挨拶

「上海での寮生活」

教養教育科 准教授 藤野 月子

寮生の皆さんこんにちは。今年度もあっという間に過ぎ去っていききました…皆さんと一緒に過ごす時間は本当に楽しいのですが、それだけ早く流れていくような気がする今日この頃です…来年度もぜひまたこの寮で共に充実した生活を送りましょう！

私は毎年、この寮の広報誌で原稿を書いています。今回は初めて私がこれまでの人生で唯一、寮で生活した思い出について語ろうと思います。

それは今から約15年近くも前の事になります。私は当時、大学院の博士課程に所属していました。ご存知のように私の専門は歴史、中でも中国の古代や中世という古い時代です。自ら望んで入った大学院でしたが、研究機関に就職するためにはいわゆる三種の神器という武器が必要でした。つまり博士号と科研費の取得と留学経験です。その頃の私はまだそのいずれも手にしてはおらず、まずは留学をしよう！ということで、より専門が詳しく学べ、なおかつ中国語の習得も目指せる上海の復旦大学、というところに留学することにしました。私が所属していた九州大学と提携をしていた大学で、運良くその提携制度を利用して学費と寮での滞在費は免除になりました。生活費は自己負担です。

何より30歳になろうとしているにもかかわらず、自宅と大学が近かったために私はそれまで一人暮らしの経験がなく、なんと海外での留学が初の一人暮らしとなりました…もちろん最初はものすごく不安で、なにしろまだまだ中国語は話せないし、生活スタイルや文化も違うし…しかし結果的に上海で過ごした1年間の寮生活は極めて素晴らしい体験となり、今の私を形成したと思います。規則などはとても緩かったのですが、1人部屋ではなくて2人部屋でフィンランドからの留学生と共に過ごしました。英語も流暢でない私はとにかくにも中国語をマスターせねば始まりません…不安な気持ちが膨らんでも、毎日は怒涛のように過ぎていきます…今から振り返れば、当時の私はどうやらそうした環境を楽しんでいたと思います。少しだけルームメイトに気を遣いつつ、同じ寮で生活する外国人の友人達と食事したり勉強したり遊びに行ったりパーティしたり…早い話が、悩むより慣れろだなあと実感しました。この寮生活も含めた留学経験を通じ、私はあまり物怖じしなくなったような気がします。ただ一つネガティブな点があるとすれば、楽しみ過ぎて（寮に食堂はなく、付近の食堂や屋台で食事をする）飲食が安くて美味し過ぎて、体重が10キロ近くも増えてしまい、帰国の際に空港まで迎えに来た父に私であることを認識してもらえなかったことです…帰国してすぐに何故だか急激に元に戻りましたが…

皆さんも寮で過ごすことで、貴重な青春の日々に何かしらプラスになることがあればと願っています。



↑ 上海 復旦大学 留学生寮の私の部屋

↓ 復旦大学近くの魯迅公園にある魯迅像を見ました



新任 寮務主事補 挨拶

「新任の寮務主事補あいさつ」

教養教育科 講師 松岡 信之

鈴鹿高専で公民系の教科を担当している松岡です。本校には2021年の4月に着任して早くも3年になろうとしています。2年生と4年生の必修科目を受け持っているので、1年生と専攻科の学生以外は私の顔を見たことがあるはずです。今年度、寮務主事補をやるというお達しがあり、いろいろなところで顔を合わせる機会がありました。

私がゆめめに守っていることは、時間をそこそこ守るということです。冗談で「定刻主義者です」という挨拶もしています（注）。この考え方は寮生活でもよく感じる部分だと思います。とくに朝と夜の点呼は定刻までに全員が行わなければならない、もし点呼をしないと大変なことになります。起床から食事、入浴、就寝まで毎日一定のリズムで過ごすみなさんには、おなじみですね。

私の学生時代を思い返すと、定刻とは無縁の生活をしていましたことを白状します。新潟県の中山間地に生まれ、進学と同時に上京して一人暮らしを始めました。時間について厳しく言う人が誰もいない環境のもと、大学の1コマ目の授業（必修）を寝坊で落とし、再履修というご褒美をいただいたものです。このような徳を積んできたことで、時間を守ることの大切さが身についたといっても過言ではありません。

今年度、寮の仕事を担当してみて感じたことは、自分を律することができる人とできない人の差が思ったよりも大きいということです。居室チェックをしていると、寮の部屋をきれいに使おう、整理整頓をしようという意識がはっきりしている人、まるで自分の部屋のようにだらしなく使っている人、こんなに違いがあるものかと気づきます。言うまでもありませんが、みなさんが極めて低廉な費用で過ごすことができているのは、その分税金が投入されているからです。高専は独法化されたものの国立であることには変わりありません。そのことを十分意識しつつ、毎日楽しく過ごしてほしいと思います。

最後になりましたが、点呼はしっかりと。とくに夜点呼は忘れずに。寮監の先生が帰宅できなくなります。

（注）時間通りに進める“定刻”と国家の利益増進を図り植民地などを獲得しようとする帝国主義をかけた極めて高度なジョーク。



新任 教員 挨拶

「寮生活ならではの経験」

教養教育科 助教 青柳 唯

寮生のみなさん、寮生活をいかがお過ごしでしょうか。私は、鈴鹿高専に着任して1年が経とうとしています。私の授業は、1年生全クラスと4年生の1クラス分の「保健体育」を担当しています。

私が教員の業務である寮監を担当して感じたことは、寮生のみなさんは寮生活を通してルールを守る大切さと人との関わり方を学び、実際に経験しているということです。

寮生活では、決められた時間の中でルールを守って生活する必要があります。

もしルールが守れなければ退寮しなければなりません。自分たちが不自由なく生活していくためには、決められたルールを守ることによって実現できるものです。規則あつての自由というのは、規則を守れた上で空いた時間を自由にできます。

寮には、食堂での食事時間や朝夕の点呼時間など、必ず決められた時間があり、みなさんはその時間に合わせて生活します。この生活に慣れると自分のルーティーンとなり、生活のリズムができます。生活リズムが整えば、時間的にも精神的にも安定して余裕が生まれてくると思います。その時間を大切に、有意義な時間にしてほしいと思います。

また、寮生活では同級生や先輩、下級生など自分以外の人と生活を共にします。学校だけではわからない一面があったりもします。学業の相談をしたり、プライベートな話で盛り上がったり、寮の仲間と楽しい時間を過ごしてください。そこで生まれた繋がりが、今後ふとした時にあなたの助けとなるかもしれません。

この経験は、他人と同じ建物内で暮らす寮生活ならではの体験です。そして、その経験は今後の人生において役に立つ日が来ます。

これからも、ルールや規則を守った中での自由をうまく活用しながら、多くの人と関わって過ごしてほしいと願っています。



「寮生活について」

教養教育科 助教 菊池 翔太

寮生の皆様、こんにちは。教養教育科の菊池翔太と申します。新任ということもあり、面識がない学生の方も多いと思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。今回、寮の広報誌に寄稿するにあたり、寮について色々と考えてみました。

まず初めに、私は寮のような集団生活を送ったことがありません。なので、私自身が考えた「寮生活は〇〇である」のようなことをつらつら書き連ねたところで、机上の空論となります。それゆえに、少し見方を変えて、高校当時寮生活を送っていたクラスメイト達について振り返ってみたいと思います。

振り返ってみたところ、最初に感じたのは、寮暮らしであった彼・彼女らは、なんだかんだ言いつつ楽しく生活していたということです。寮での人間関係も一部を除いて比較的良好であった印象です。今回はこの部分を掘り下げてみたいと思います。彼・彼女らは、朝起きて点呼をとり、他の学生より早めに登校し、学内の学食で朝食を食べる。朝食を食べ終えた後は、教室近くの水飲み場で歯磨きをする。私の登校時間は、その時間帯であったため、よくある朝の一コマとして歯磨きをする彼らの姿をよく覚えています。黙々と歯を磨く人や軽い談笑をしながら歯を磨く人、勉強しながら歯を磨く人など様々な人がいました。情景が浮かぶように、それっぽく書いてみましたが、そんなことは重要ではありません。ここで私が感じたことは、歯磨きをする方法の一つとってみても、皆まったく違うということです。こんな何でもないワンシーンだけでも多種多様な価値観を持った人々がいることが感じられました。親元から離れ、様々な価値観をもつ人々がいる場所に、ある意味放り投げられた彼・彼女らは、そういうこともあり、他人の許容できる点や許容できない点を早くから感じるようになったと思います。特に許容できない点などは、良い点より目立つ印象があります。許容できない点を直接訴える人や泣く泣く妥協する人など、沢山の話を聞いたことを覚えています。プライベートな内容が多かったため、詳細は伏せますが、多感である高校生の年頃だったことを鑑みても、非常に大変だと感じたものです。そんな寮での共同生活を送る彼・彼女らは、日を重ねるごとに逞しくなっていました。当時実家暮らしであった自分とは異なり、社会で暮らすための人間偏差値という量があれば、確実に同年代では秀でていたことでしょう。このように過去を振り返ってみると、冒頭で述べた比較的人間関係が良好であった印象も違うものと感じられますね。

そんな共同生活を送った彼・彼女らは、全員がというわけではありませんが、苦楽を共にすることで、家族は言い過ぎですが、それに近い関係を築くことになりました。そのような存在が複数いるのは大きな財産だと思います。寮生の皆様も、そんな存在に出会えるかもしれないですね。色々書き連ねてきましたが、一人暮らしというのも良いものだ！という言葉で文章を締めくくりたいと思います。

「当たり前のように当たり前でない暮らし」

電子情報工学科 助教 山本 真人

寮生の皆さん、こんにちは。実質、「初めまして」となる人も多いのではないかと思います。本年度より電子情報工学科に赴任した、山本真人といいます。ただ、昨年度まで4年生向けの授業の非常勤講師をしていたので、中には本年度を待たずとも私のことを見たことがあったという人もいるかと思います。これからは、これまで以上に皆さんと過ごす時間が増えるかと思います。よろしくお願いします。

さて、私の地元は鈴鹿高専から近いようで遠い、和歌山県南部にあります。この私の地元は、とても自然の多いところです。春には窓を開ければ鳥の声が聞こえます。夏には近くの海や川で泳ぐこともできます。秋は過ごししやすい気温なので、山歩きをするのも良いでしょう。冬は鈴鹿より暖かい気温の中過ごすことができます。遊び方はここには書ききれませんが、皆さんも機会があればいつか観光に来てもらえればうれしいです。

ただその分、地元は過疎化が進行しており、不便に感じることもいろいろとありました。教育に関してもそうでした。地元には高等教育機関がほとんどなく、私は大学進学と同時にそこを離れなければなりませんでした。大学生になってからは、必然的に大学近くにアパートを借りて一人暮らしをすることとなりました。今思えば、初めての慣れない都会暮らし（当時の私には、大学の近くが大変な都会に見えました）かつ一人暮らしで多くの不安を抱えていたと思います。実際、慣れないうちは寂しさを覚えたり、悩んだりする場面もあったなと思います。

一方、アパートでの一人暮らしは上述のとおり必然的に生じたものではありましたが、同時に自由を獲得することにもつながりました。時には部屋に友人を呼んだりして、楽しい時間を過ごすこともありました。何より、大学に近いところに住むことができ、通学時間を節約することができました。そのことは、より多くの勉学に関する時間を確保することを可能にしてくれたのではないかと考えています。

皆さんは鈴鹿高専での生活、あるいは寮での生活はいかがでしょう。とても充実した気持ちの人もいれば、かつての私のように、思ったより大変、という人もいるかもしれません。でも、共に語り合ったり、隣で呼吸をしたりする仲間がいるというのは、当たり前のように決して当たり前ではありません。特にこの数年、私たちの生活に大きな影響を及ぼしたコロナ禍は、そのことを嫌でも私たちに感じさせることになったのではないかと思います。ですから、たとえ限られていたとしても共に過ごせるこの時間を大切に過ごしたいと思います。そして願わくは、卒業後も切れない、固い友情が育まれると良いですね。

もちろん学校生活・寮生活の中では楽しいこともあれば、自分のことであっても自分一人ではどうしてもできないような困った事態も生じ得ます。そのような時は、信頼できる周りの人に相談することも大切だと思います。ぜひ、共により良い生活を目指しましょう。

寮事務より

「寮事務の仕事」

学生課 寮務係 岩佐 善夫

はじめまして、今年5月から寮務係にきました。

学生の皆さんとの接点としては、学生課職員をしていた期間が長いので学生課窓口で見た方もいるかもしれません。また、鈴鹿高専とは私の家族のうち兄や従妹、甥などが鈴鹿高専に入学していて、寮でも生活していたことがあるので、深いつながりを感じています。これまで寮事務とは、学生課職員として仕事の応援に来たことはありますが、直接の配置は初めてとなります。

寮事務所は、寮母さんや調度品などのおかげでとても明るい雰囲気です、私も皆さまに対して明るく振舞おうとがんばって努力しています。皆さまも挨拶をしたら元気な声で返していただければ、こちらもうれやもらえてより一層がんばることができます。それでもまだまだ皆さまの名前と顔を覚えることができず、何度も名前を聞きなおすことが多くて申し訳なく思っていますので、温かい目で見守ってください。

いままでコロナ過の渦中ではありましたが、今年は寮祭をひさしぶりに実施することができました。それでもまだまだ談話室でテレビ視聴など大人数での談笑することができない状況でもあり、皆さまには窮屈で不自由な寮生活を強いられている状況にあります。それに心配することといえば居室が個室となっており、生活面で羽を伸ばしすぎて寝坊とかして乱れていないでしょうか？また、学生の本分である学力面が疎かにならないよう、各々が自覚をもって規則正しい生活をするようにしてください。

これまで寮生活を送れているのは、林寮務主事はじめ、寮務主事補、寮母さんたち皆様方のおかげです。心より感謝を申し上げます。



各寮長 挨拶

「挨拶」

1寮 前期寮長 池田 希佳

こんにちは。1寮の寮長をさせていただいている池田です。

私は大台町に住んでおり、入学と同時に寮に入りました。大台町は三重県にあるのですが、県内（特に北側）の人の中で知名度が低いようで、友達と地元の話題になった時、大台町のことを言うと高確率で「県外から来たの?」と聞かれるので、少し悲しい気持ちになります笑。

入寮した当時は地元を離れて生活するという事に大きな不安を感じていましたが、同室の先輩や先生方のサポートもあり、思っていたよりも早く寮に慣れることができました。寮生活では、掃除があったり門限があったり、集団生活をする中で不便に感じることも多いですが、それ以上のメリットもあります。私が特に寮に入って良かったと思うことは、交友関係が広がったことです。他学科の人とも話す機会がたくさんありますし、一緒に過ごす時間が長いのですぐに仲良くなることができます。私は中学生の頃、初対面の人と話すのがあまり得意ではなかったのですが、寮に入って色々な人と話したりすることでコミュニケーションをとる力が上がったと感じています。

現在はコロナウイルス流行防止の取り組みから人と関わる機会が減り、私が入寮した時と比べて交友関係を広げることが少し難しくなっていると思います。しかし昨年、寮事務の方や先生方、寮役員などたくさんの方の協力の下、3年ぶりに寮祭を開催することができました。まだ完全な形ではなく、少し制限がある状態での開催となりましたが、コロナ禍の寮生活を窮屈に感じている寮生の皆さんに少しでも楽しんでもらえていたら嬉しいです。

寮祭を開催できたことは、コロナ禍前の寮生活に近づくための大きな一歩になったと考えています。まだまだ課題はありますが、皆さんと協力して、快適に生活できるより良い寮を目指してこれからも努めていきます。



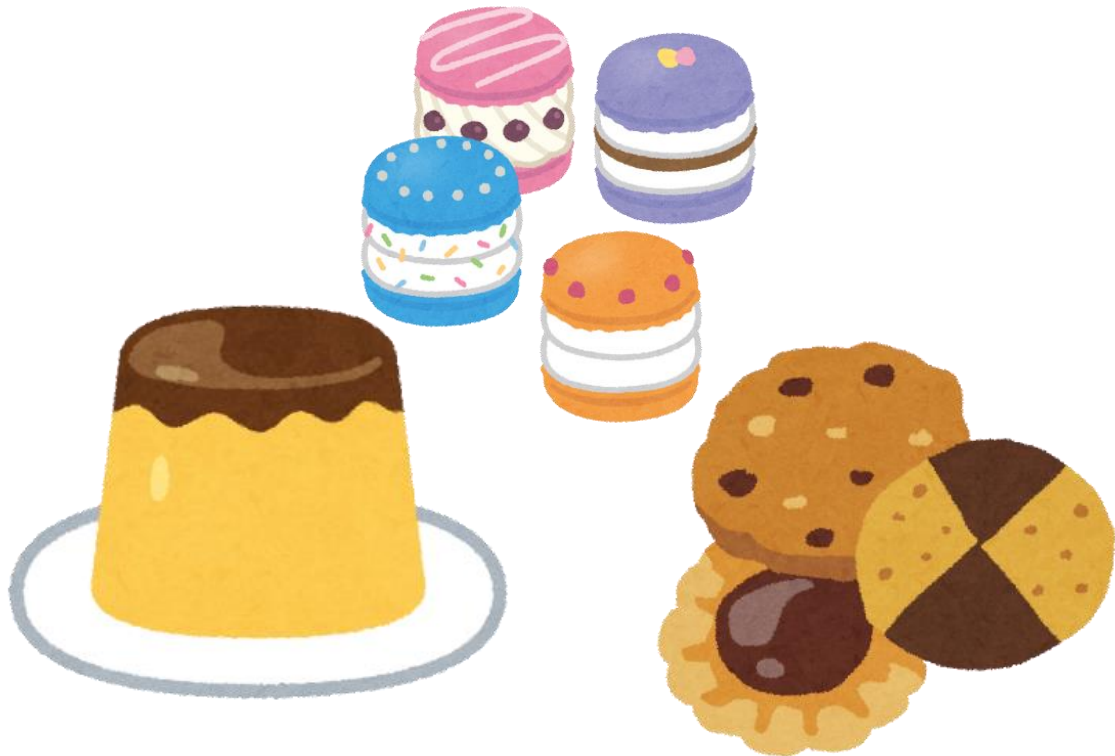
「1 寮での生活」

1寮 後期寮長 高橋 里歩

コロナ禍での寮生活が3年目に入りだんだんとコロナに適応した生活に慣れてきました。今年度始まったＩＣタグでの点呼では、初めは機器のトラブルも多く点呼に時間がかかったり対面点呼と並行で行ったりしていましたが、名簿の導入や週番さんの協力、機械トラブルの減少などにより今ではほぼ毎日全ての点呼をＩＣで行えるようになり、点呼が楽にスムーズになってありがたく思います。ただ、以前は点呼を忘れていても点呼班長が声をかけることで点呼を行ったことになりましたが、今は自己管理のため点呼欠席が付きやすくなっているので気を引き締めて毎日忘れずに点呼を行っていきたいです。

今年度は新入寮生の人数が増えたため、昨年度大幅に見直したルールを少し改訂し、昨年度から制作を続けてきた女子寮のしおりを完成させることができました。点呼などの寮全体の決まりから、女子寮にある独自のルールや仕事を誰が見てもわかるようにまとめたので、寮生活で困ったことがあった時や、ルールを作ったり変更したりする時に役に立つことを願っています。

相変わらずコロナ禍での制限のある生活が続いていますが、寮祭や談話室、朝ご飯の形態復活、一時的ではあったものの2人部屋の再開も行われました。特に1年生がテスト期間を中心に積極的に談話室を使っていたり、補食室でお菓子を作ったりしているのを見ると、コロナ前の賑やか寮生活が戻りつつあることが感じられて嬉しく思います。これからもコロナに柔軟に対応しながら、より過ごしやすく楽しい寮生活を送りたいです。



「広報誌と寮祭と青峰寮と」

2寮 寮長 酒井 拓

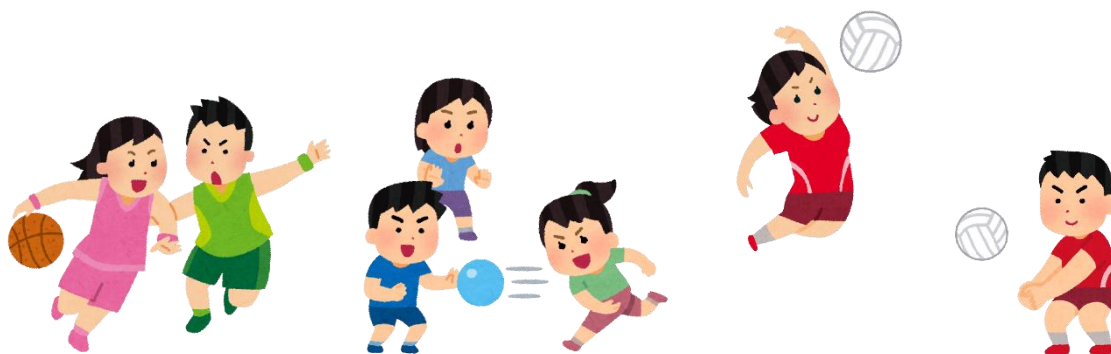
日付が変わって24時、原稿の締め切り日を迎えました。当然書きあがっているはずもなく、昼には提出せねばならない課題も終わっていないとなれば、今夜も長くなりそうな酒井です。今年度からは専攻科生として、寮長を拝命しました。冒頭にある通りいいかげんな人間ですので、寮長という重責が務まるのかと思われた方もいらっしゃるでしょう。ありがたいことに、副寮長の皆様がしっかりサポートしてくれています。

寮の広報誌といえば最近はホームページに公開するので見ることも減ってしまったのではないのでしょうか。私が低学年の頃は寮の談話室に何年分も置いてあって、いつでも読めるようになっていました。2、3年前のものはもちろん、何年も前に卒業された先輩方が載ったものなど、様々ありました。本科2年生の頃だったか、閉寮の準備の合間に読んでいた時に保護者様に声を掛けられ、「やることがあるときに限ってなぜか読みたくなるんですね」と答えたことがありました。ほかに、友人の名前がなぜか「面白い寮生」として掲載されて、「あれ、酒井さんは載ってないの？おかしいなこの本」と彼がつぶやいたことなど、様々なことが思い出されます。そんな広報誌を今度は自分が書く側に回ったのは少々不思議な気分です。これを読む方が気を悪くしないことを願うばかりです。

さて、ここ数年間はコロナ禍のネガティブな話題ばかりでしたが、少しずつコロナ前に戻りつつあるように思います。明るい話題かどうかは人によるのですが、今年は寮祭も行われました。運動神経の欠片もない人間なので参加したことはなかったので、初めての寮祭は運営側での参加となりました。名簿の不備があったり、裸足でバレーボールに参加する人が出たりと様々なトラブルがありましたが、審判としてバレーボールを観戦したり裏方の仕事をこなしたりと思いのほか楽しませて頂きました。参加された方は楽しめたのでしょうか。もちろん、昔の私のように参加しないのも一概に悪いとは思いません。コロナ前の寮祭に見劣りしないものだったと思いますので、来年運営にあたる方々には少し荷が重いかもしれませんね。

今の青峰寮はこんな感じのところですよ。いかがでしょうか。私個人としては、授業に課題に研究に、日々追われておりますが、もうしばらく寮生活を楽しめればなと思っています。

最後になりますが、皆様の寮生活が楽しいものでありますように。



「寮生活」

4寮 寮長 牧原 旺雅

はじめまして。

4寮寮長を務めさせていただいた生物応用化学科4年の牧原旺雅です。

ここ数年続く新型コロナウイルスによる影響で今年度も制限されることが多くありましたが、寮長として寮役員の仲間と共に学生やそのご家族が安心・安全に寮生活を送れるよう寮運営に携わらせていただきました。

多くのイベントや行事が中止されたり縮小されたりする中、寮役員で寮祭を復活させようと計画しました。

何度も会議を重ね、感染対策をしっかりと講じて、今年度3年ぶりに寮祭を開催することが出来ました。

寮祭では、寮生が楽しそうに球技大会をしている姿や友人を一生懸命応援している姿が見られました。

1・2・3年生にとっては初めての寮祭となりましたが楽しんで貰えたでしょうか？是非、次年度からも引き続き開催し寮生の絆を深めて貰いたいと思います。

5年生にとっては3年ぶり最後の寮祭でした。長く過ごした寮生活の楽しい思い出の1つとして心に残っていただけたら幸いです。

最後になりましたが、僕がこの1年間、寮長としてやってこられたのは寮役員のみんな、そして4年生の仲間のお陰です。本当にありがとうございました。

寮生活で僕は沢山の信頼できる友人が出来ました。

これからも多くの寮生が充実した高専生活を送れるように、寮生活の更なる向上に尽力していきたいと思います。



「この一年を振り返ってみて」

A寮 寮長 堂本 泰晴

二年の時に指導寮生に立候補し、ひょんなことから寮長になりました、材料工学科の堂本と申します。今年は去年に比べ感染対策が緩和され、より寮生活が自由になりました。そして今年は、主に二つ寮生活に大きな変化がありました。

一つ目が、点呼を対面ではなく、ＩＣリーダーで行うようになった事です。これにより、対面の時では寝過ごしている人をノックで起こして点呼をする、という事が出来なくなり、点呼忘れの人が続出しました。しかし、今までは点呼時間に部屋前に居ないといけなかったのですが、変更後はＩＣリーダーにかざしたら点呼終了となるので、早く学校に行って仕事をしたり、より自由に朝食に行けたりすることが出来るようになりました。

二つ目は、三年ぶりに寮祭が開催された事です。僕は審判として参加しました。新型コロナのせいで、寮祭を経験したことが無かったので、初めは少し不安でした。しかし、いざやってみると案外面白く、寮生の、普段見られないアクティブで楽しそうな姿を見ることが出来ました。寮祭終了後は友達とドンキで外食をしました。僕は、普段は友達と食事をする事はまず無いので、とてもいい機会でした。

僕個人のこの一年間を振り返ってみて、一つ大きな変化があったことに気付きました。それは寮内に友達が増えた事です。僕の代の材料工学科の寮生はとても少なく、寮内には殆ど友達がいなくて、いつも一人で行動していました。しかし、指導寮生になって交流が増えていく内にその人たちと友達になる事が出来ました。そして、分からない事を聞いたり、雑談したりすることが増え、ストレスの発散になったり、他の学科は何をしていて、どんな感じの雰囲気なのかもある程度わかりました。

感染対策は徐々に緩和されてきており、来年は今年よりも自由度が高くなっていると思います。僕は来年も指導寮生をするので、来年も寮生活を改善していけたらいいなと思います。



↑ 10年に一度の今季最強寒波により雪化粧となった寮庭

僕の住んでいる所でもここまで雪が積もるのは一年に二・三回なのでとても驚きました

**今年度の広報誌は以上になります
どうもありがとうございました！
また来年度も宜しくお願いします**

↓ 学校にかかる2重の虹（3年振りに行われた高専祭の準備日前日に…）

